

■背景、目的

- 令和5年7月に閣議決定された「国土形成計画」においては、国土づくりの戦略的視点として、「デジタルの徹底活用」が掲げられた。また、「国土利用計画」においては、国土利用の基本方針として、「国土利用・管理DX」が掲げられた。
- 特に、国土利用・管理の観点からは、人口減少・高齢化等により、空き地・空き家の発生、農地や林地等の管理水準の低下が深刻化し、周辺に悪影響を及ぼす恐れがあることから、デジタルデータや技術を徹底活用することで、粗放的な管理や最小限の管理などを効率的・効果的に実施し、管理構想の全国展開の後押しを図る必要がある。

■調査内容

○粗放的な管理や最小限の管理などに関して、管理主体にヒアリング等を行い、求められるデータや技術等のニーズ把握を行う。



○その上で、空き地・空き家や荒廃農地など、管理水準が低下した宅地、農地、林地等において、粗放的な管理や最小限の管理などを効率的・効果的に実施する際に、必要となるデータや技術等の整理を行う。



○粗放的な管理や最小限の管理などを行うにあたり参考となる事例も含めて、管理構想の策定手続きを進める地域に対して共有することで、管理構想の策定支援を行う。

■調査成果イメージ

○粗放的な管理に活用しうる技術の例



草刈り作業



リモコン式草刈機による作業

○粗放的な管理に活用しうるデータの例

- ✓ 草刈りの省力化…雑草の生息範囲、傾斜角等
- ✓ 鳥獣害対策…獣種、個体数、処理加工施設等
- ✓ 安全な土地利用…人口メッシュ、災害リスク等

粗放的な管理や最小限の管理などにおいて、デジタルデータや技術を活用することで、管理の省力化・効率化を図り、管理構想の全国展開を支援する。